

華術規矩之卷

完

特 116

370



始



行116
370

華術規矩の卷

夫れ萬器の欲規矩せんご思時は大切の事なる故に其心を

舟田に納天地に應じた員を本意ごして聊もたがわざる様

正しく寸法を可定事なり 且天は四方に七を司ごりて

十八宿を體ごす 地は四方に九を司ごりて三百六十度を

として天地人三才陰陽五行十干十二支二十四節

の員に寄り裏表曲尺の目を用ひ一より百八迄の中活の員

に當る寸尺を定たる器物は自然に叶ひて天下の寶器なり

されば當御流の花器は神佛の姿ご同體なれば必ず能略に



大正
15. 11. 18
内交

取扱ふ事なかれ尙員の用ひ方等師に就て知るべし

花名札寸法六通

長九寸幅二寸四分厚四分八厘 初傳用之

長九寸幅二寸八分厚四分八厘 中傳用之

長一尺幅二寸八分厚六分四厘 奥傳以上國會頭迄用之

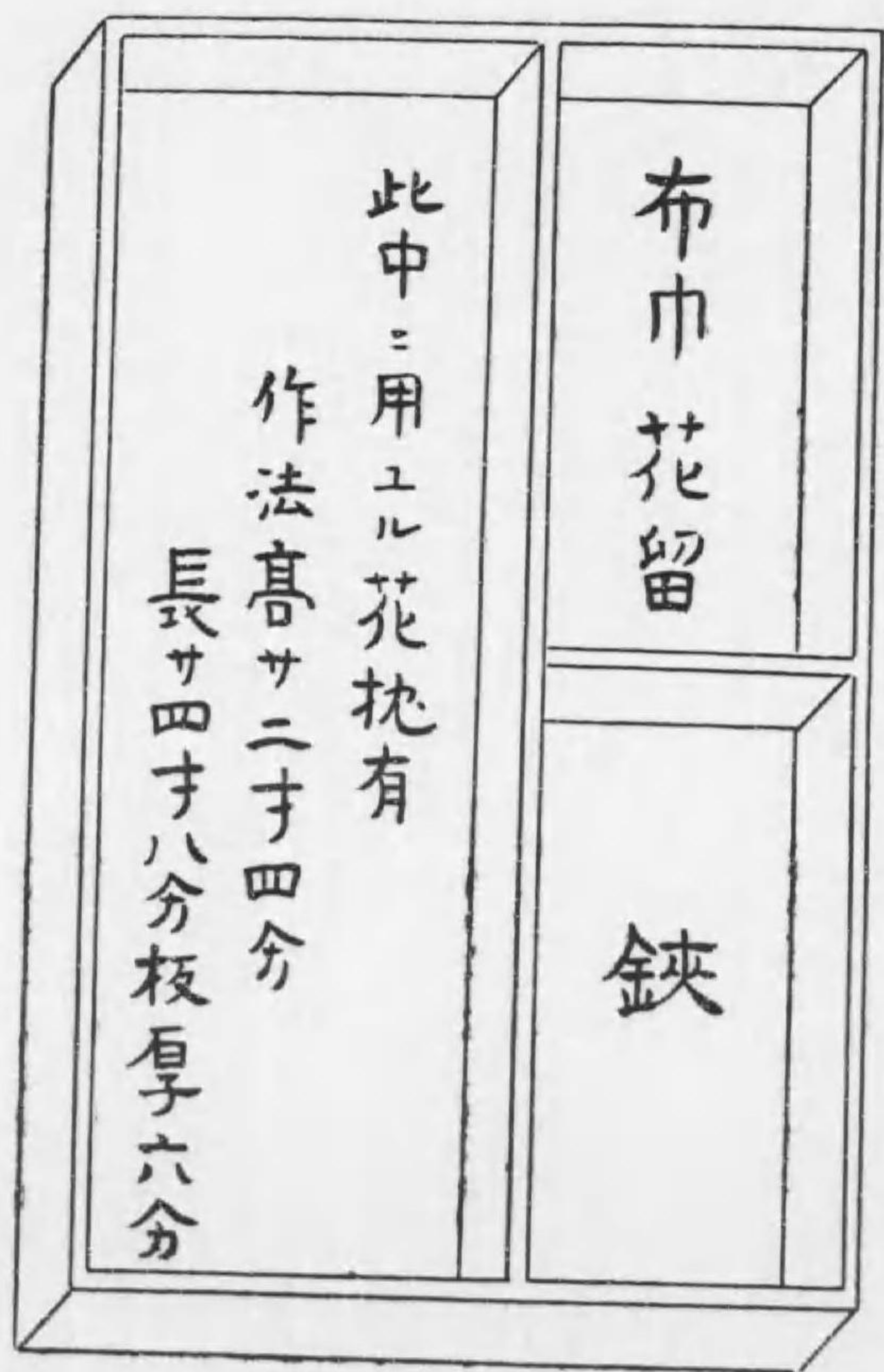
長一尺二寸幅三寸六分厚八分 准惣會以上惣國會頭用之

長陽の一尺幅陽の二寸八分厚陰一寸 准諸國以上用之

長一尺六寸幅四寸八分厚一寸二分 家元用之

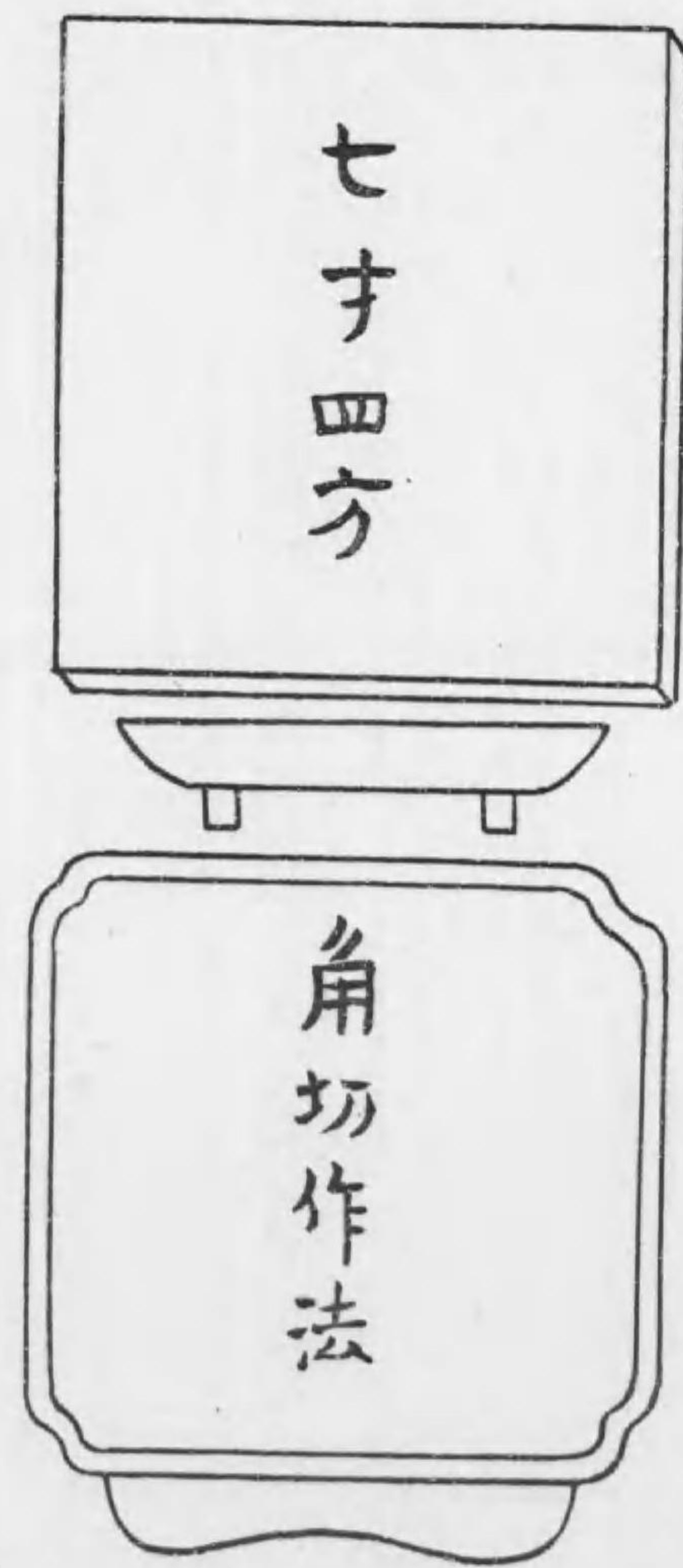
花盆寸法心得

長さ陽の一尺二寸幅陰の一尺二寸縁板厚さ四分八厘中隅板厚さ三分六厘此外花枕作法圖に就て風流に削るべし



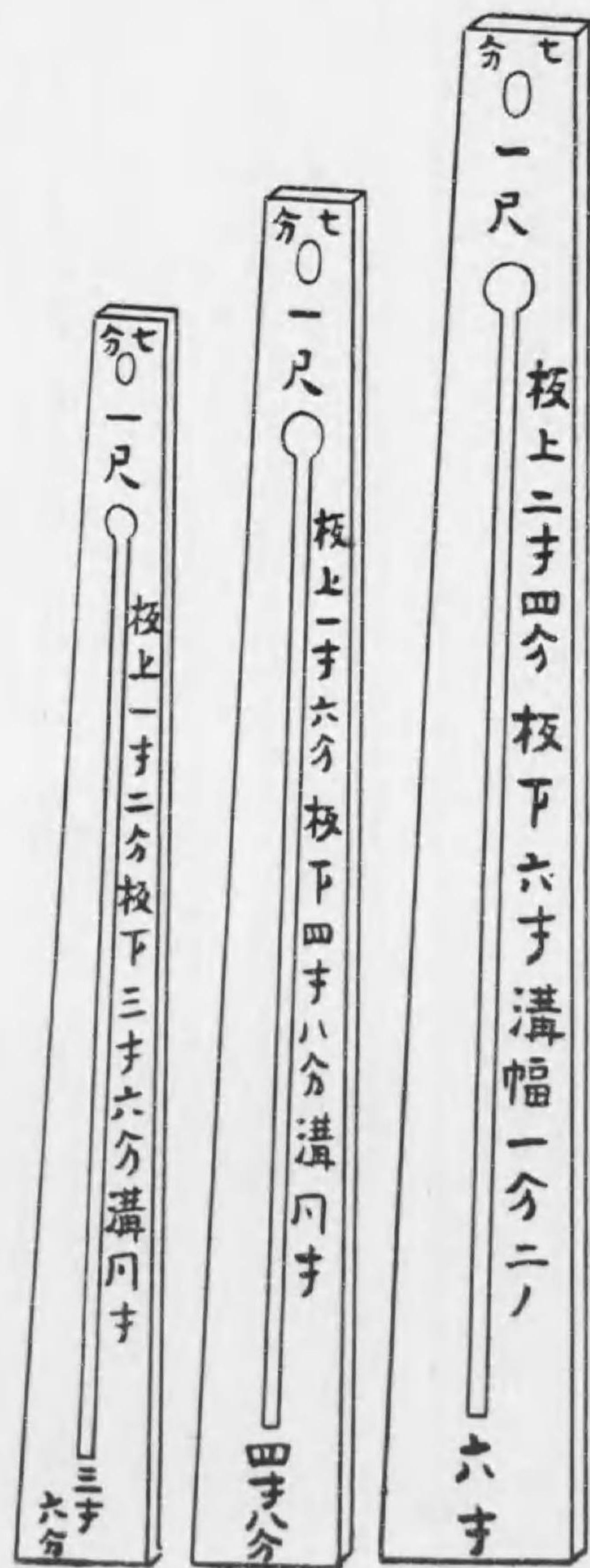
水次盆寸法心得

角切りに作る時は一寸二分づつ切り板は木地の一寸板にて裏は春日盆の通りに拵るなり 高さ一寸六分縁は細き竹又は太き藤にてもよし又は木にてもよし



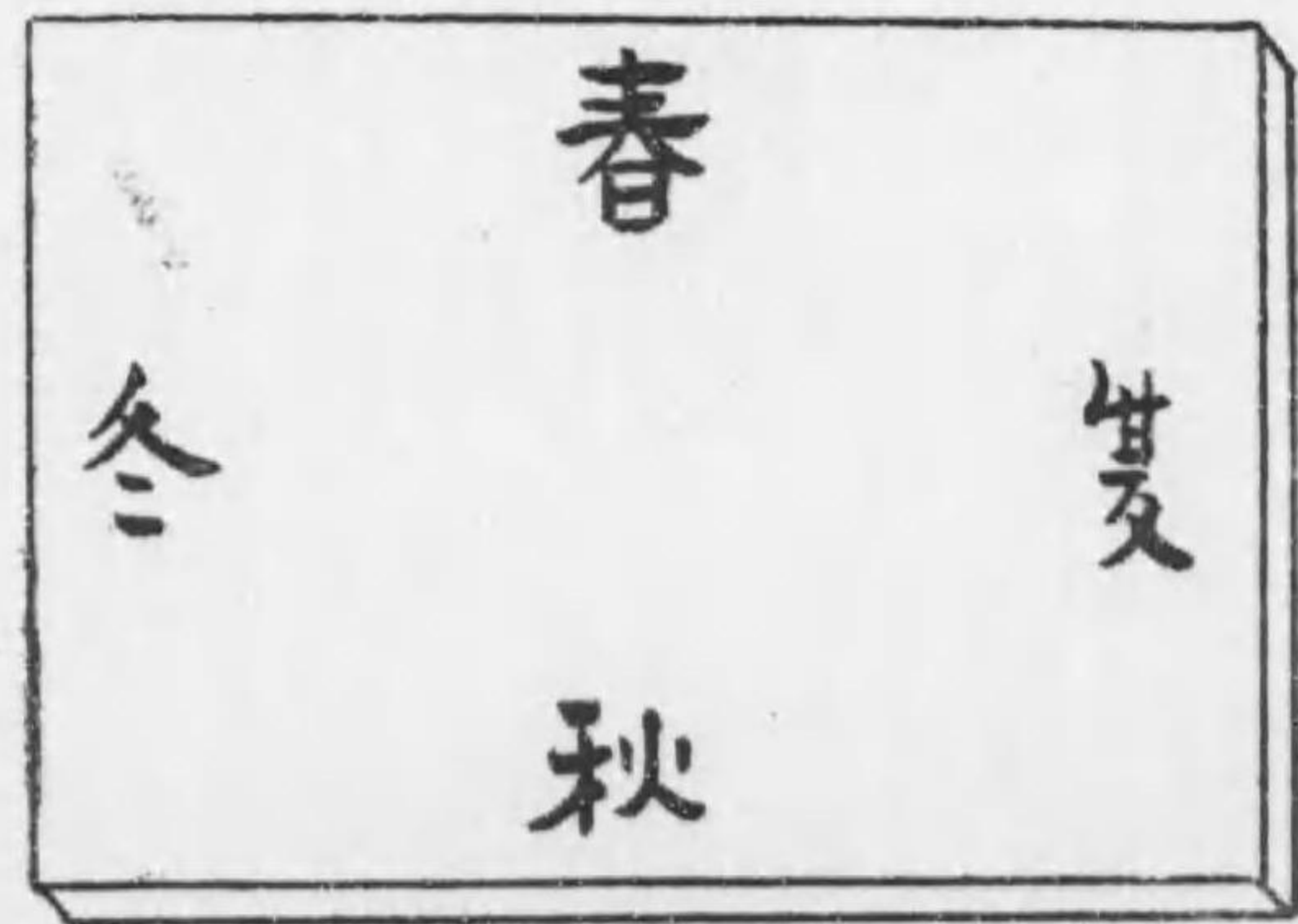
垂撥三通寸法心得

大の丈四尺八寸板厚さ三分六厘、中の丈四尺二寸板厚さ二分四厘、小の丈三尺六寸板厚さ中と同じ掛穴は大中小とも長さ六分巾三分の蓮肉の形なり中の丸穴は六分の丸此外細竹又は朽板にて作る法あり師に就いて知るべし



薄板眞行草三通寸法心得

板長さ陽の九寸幅陰の九寸板厚三分六厘面の取方にて眞行草と分つ眞は片面落とし冬之用ふ行は蛤落とし春秋之用ふ草は矢斜落とし上より下を五厘控る夏之用ふ細密なる事圖を以て知るべし



片面落

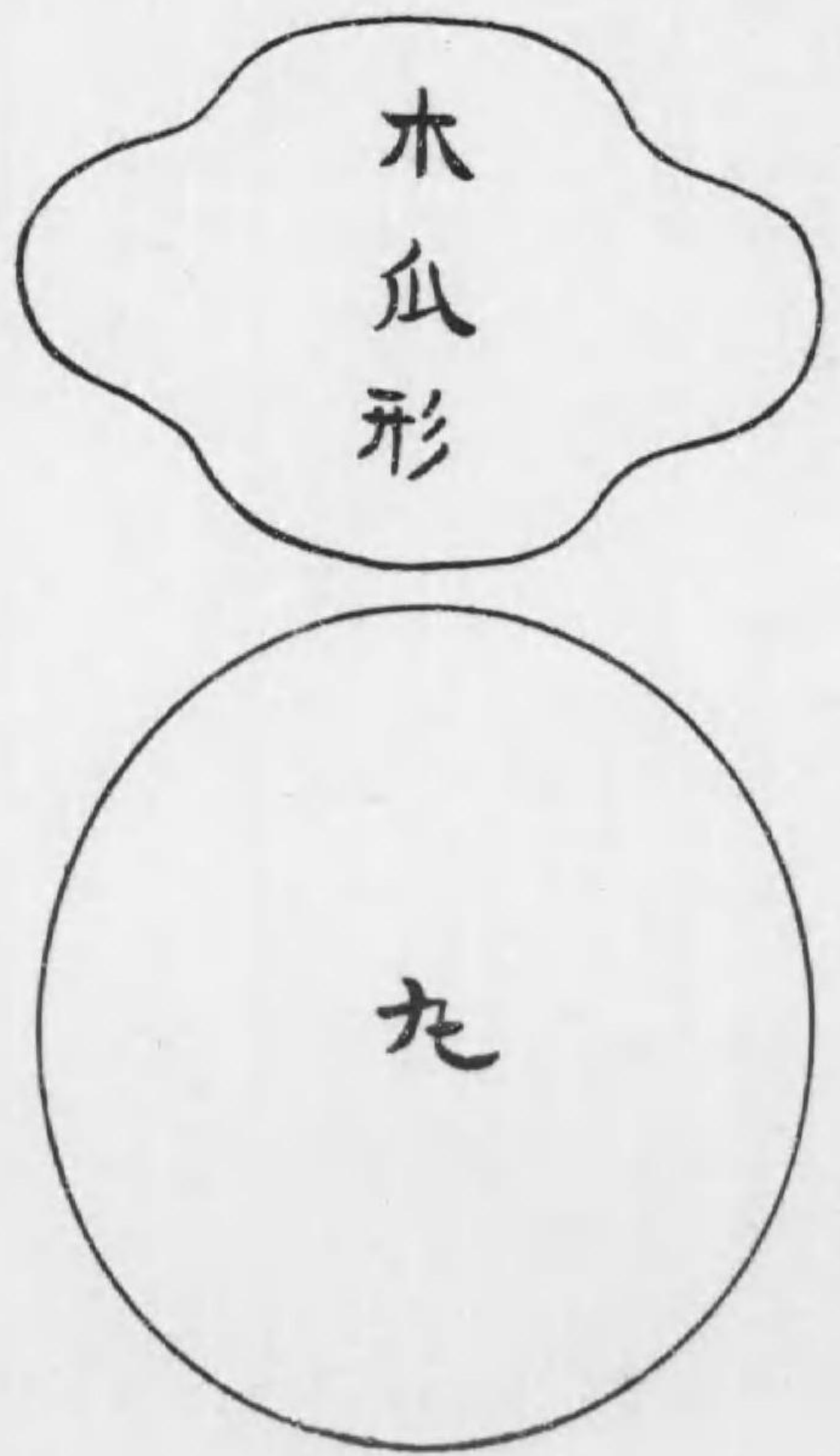
蛤落

矢斜落

變化薄板作法心得

此の薄板は全部板厚三分六厘面取方蛤落とし大きき一尺二寸丸角も同寸木瓜形は長さ陽の一尺二寸幅陰の一尺二寸此外大形を拵る時は之に準ず

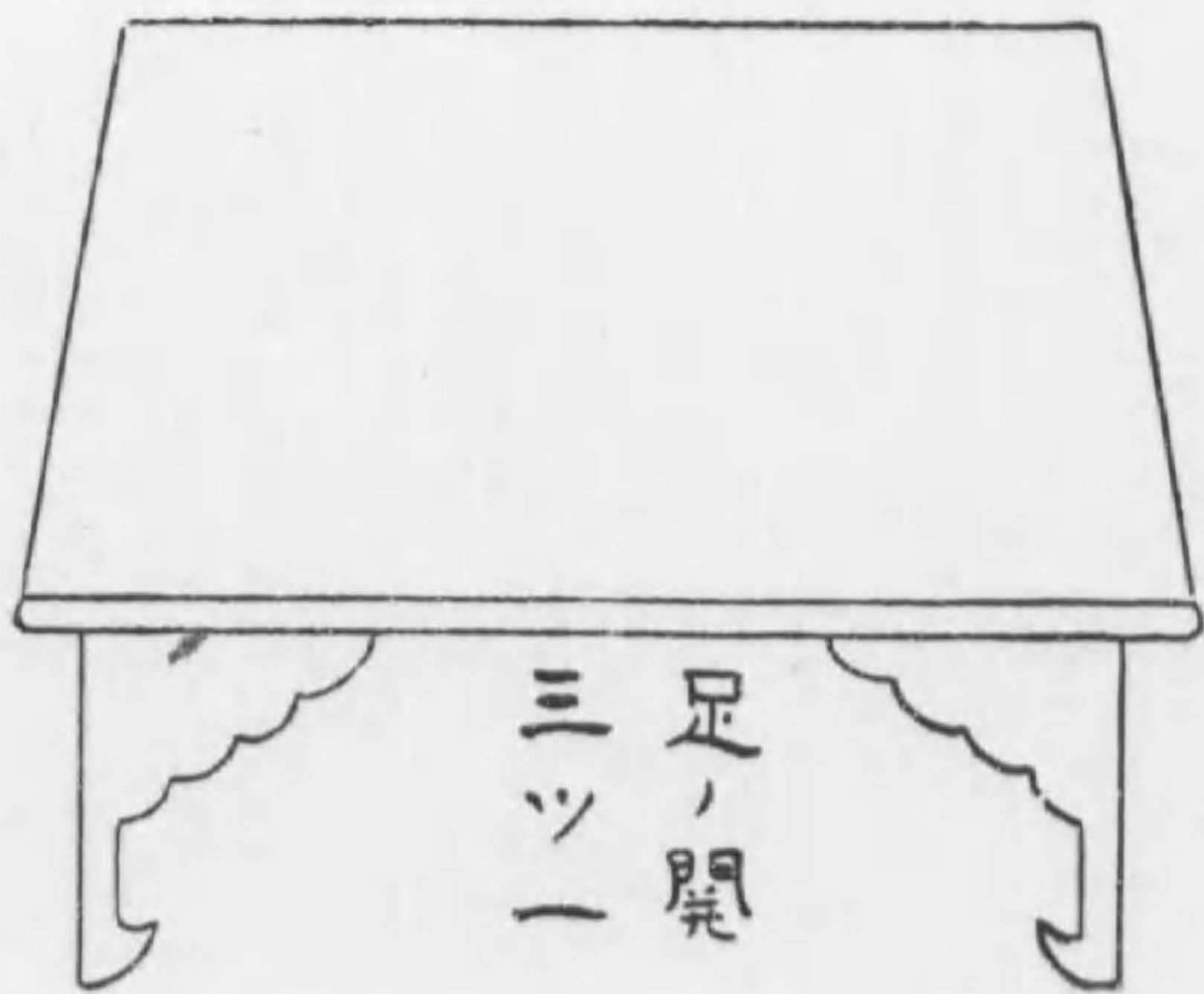




花臺眞行草三通寸法心得

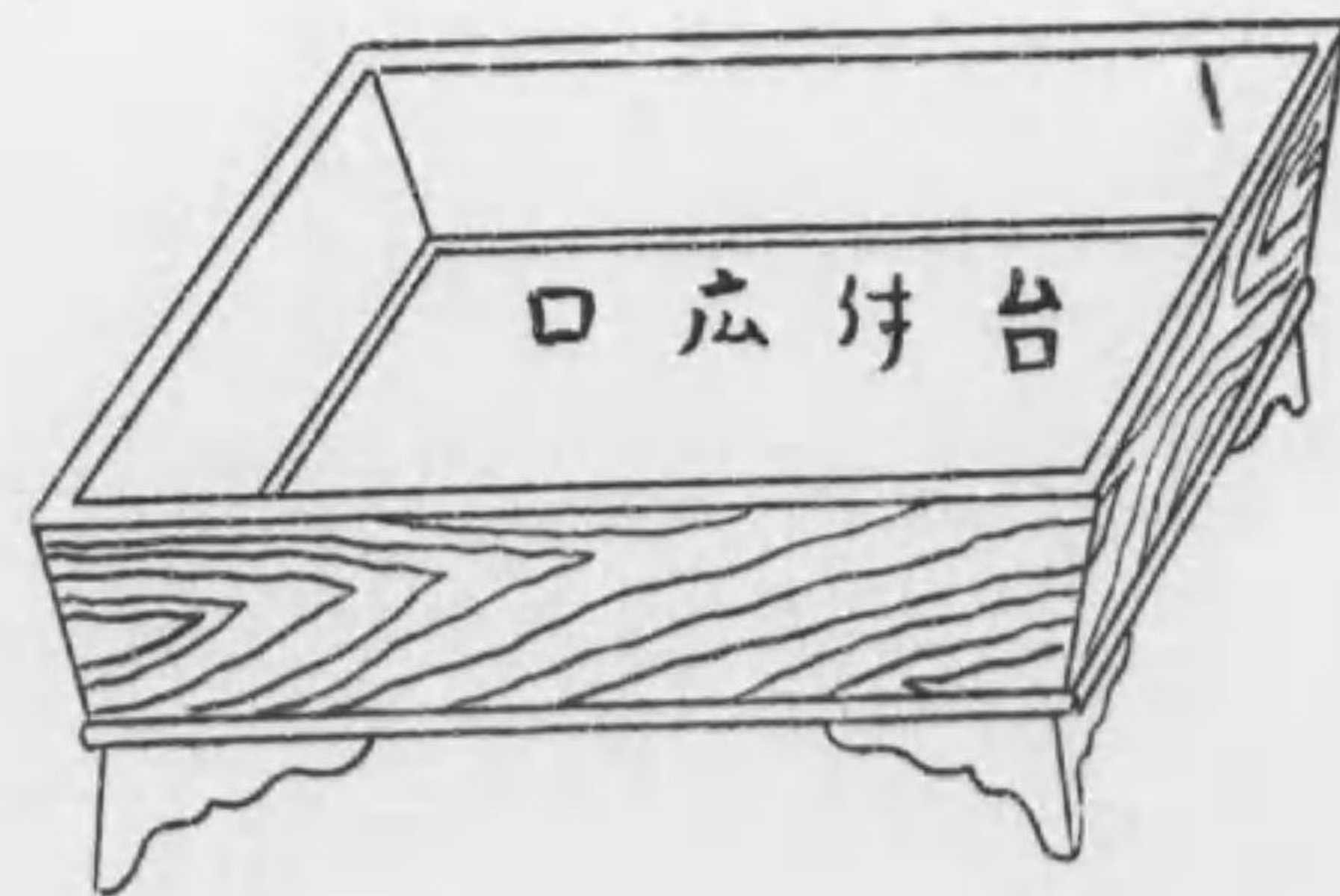
長さ幅とも薄板同寸なり厚さ三分六厘四方の面は丸竹を二つに割たる如くに取り尤も高さにて眞行草を分つ眞七

寸二分行四寸八分草三寸六分是通例の臺なり此上大形は器に應て活の員を以拵へ用ふ尤足有廣口の臺は何程大臺にても高さ一寸八分より四寸八分までの内活の員に定べし是より高きを不用足の形も種々有之至て大なる臺は厚く一寸二分にも致なり細密なる事は師に就て知るべし



臺付廣口三通寸法心得

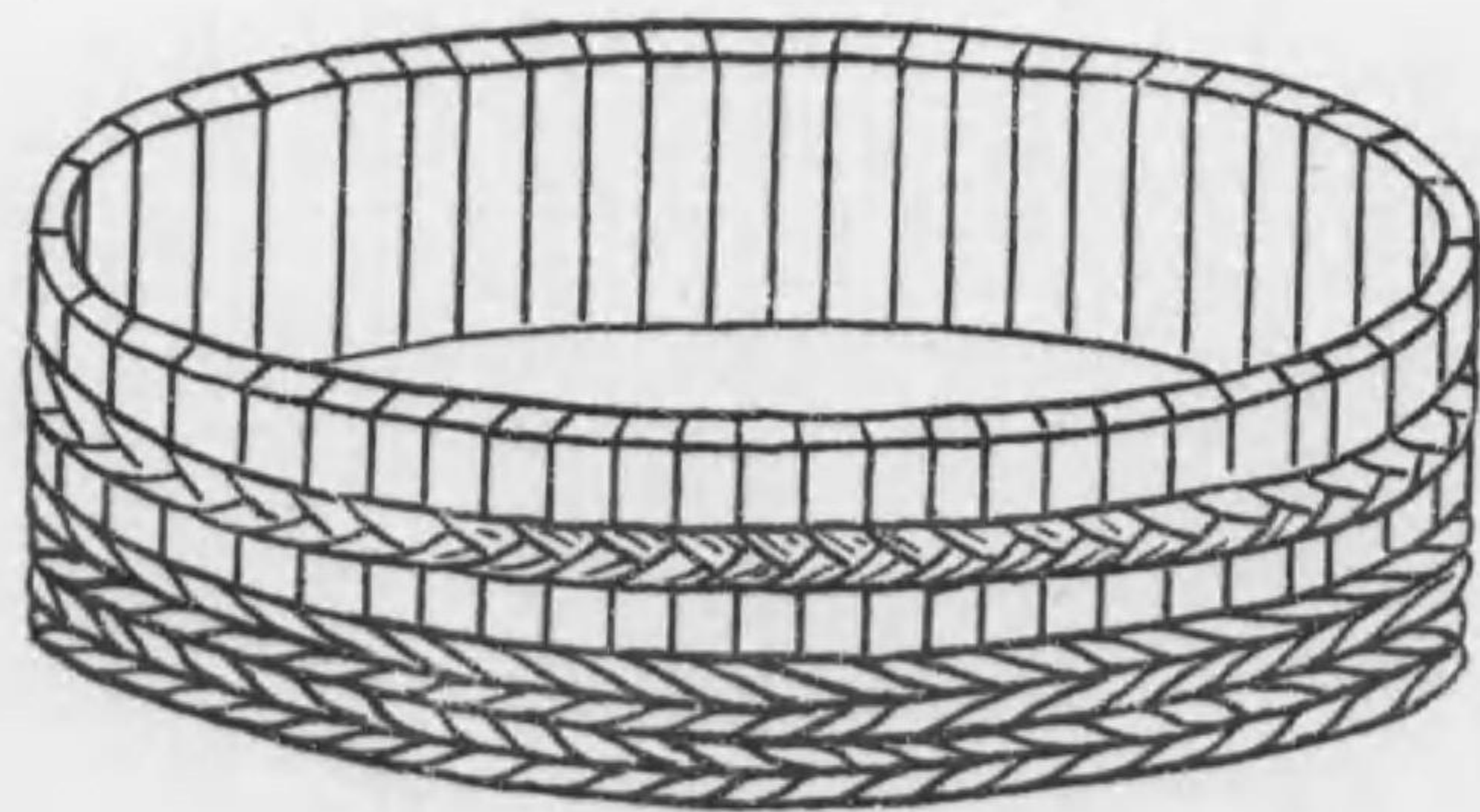
大 長さ陽の三尺六寸幅陰の三尺
 六寸深さ四寸八分板厚さ八分
 中 長さ陽の二尺四寸幅陰の二尺
 四寸深さ三寸六分板厚さ六分
 四厘
 小 長さ陽の一尺六寸幅陰の一尺
 六寸深さ二寸四分板厚さ三分
 六厘足の高さ何れも一寸八分
 風流に削べし底板は四方に一
 寸二分宛出し花臺の面の如く
 尤も臺に乗せたる如く見ゆる
 なり



馬盥三通寸法心得

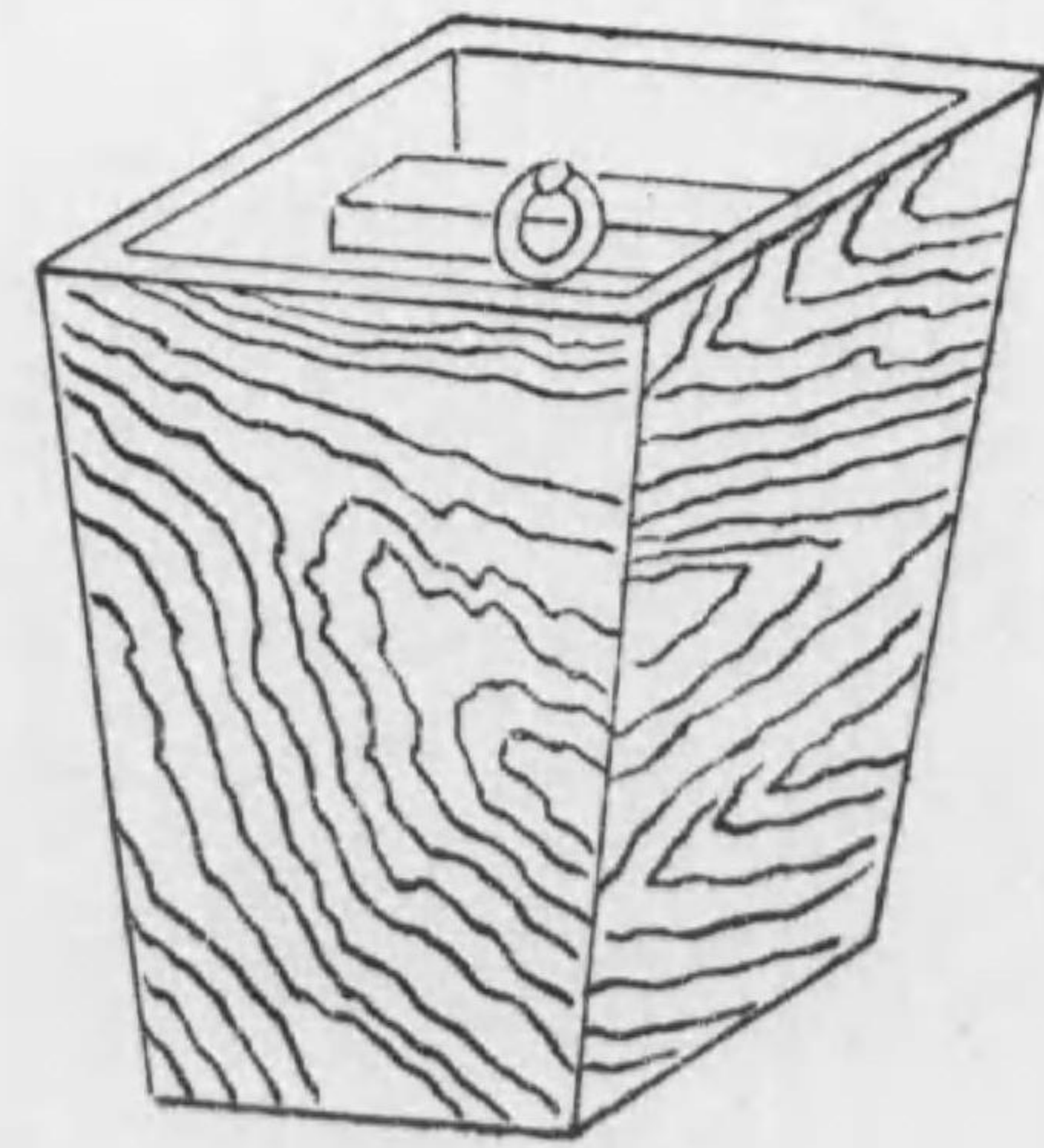
大 一尺八寸丸深さ三寸六分
 中 一尺六寸丸深さ二寸四分
 小 一尺二寸丸深さ二寸四分

小判形に拵る時は右同寸の陰陽
 の寸を用ふ輪の入方眞中に大の
 組輪を一つ入れ底より並て細き
 振輪四つ入れるなり此外大小廣
 口寸法に随べし



釣瓶三通寸法心得

- 大 高さ七寸二分板厚さ六分四厘
四方共留に指す上口六寸二分
角、底五寸二分角、手一寸角、上よ
り一寸下りて付る尤も手を堀
入れて外に不出
- 中 高さ六寸四分上口五寸六分底
四寸四分角、手右同斷
- 小 高さ六寸上口五寸二分底四寸
二分板厚さ四分八厘手右同斷



井筒釣瓶寸法心得

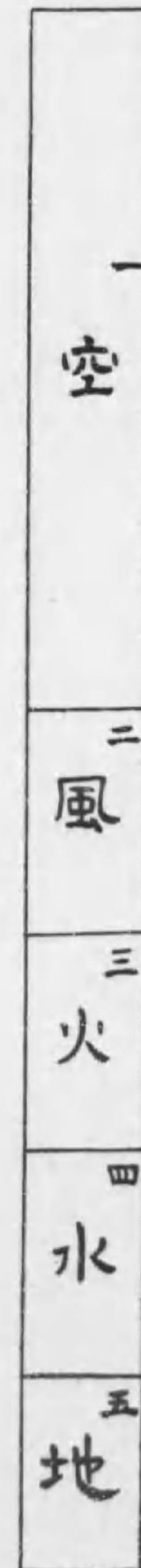
一尺六寸四方高さ九寸にし圍は杉檜の二寸丸木上下共同
様中板は舟朽木か木目面白き板を用ふ 柱は自然木の風
流なるを用ふ 惣高さ五尺二寸車徑五寸丸厚さ一寸八分
餘は常の井の車の如く拵るなり 外に圖の如く朽板組、井
筒朽、丸木井筒等あり師に就て知るべし



竹花器規矩の傳

夫れ竹に規矩せんご欲せば數多の竹花器の姿を心に浮へ
置其竹の出生を能く見立程よき形に規矩すべし たごへ
自ら望處の花器有之ご思ごも私心を用ひ聊にても竹の出
生に背く時はおしい哉死物なり 花器の姿不殘心中に有
之人は竹の見立に不可有誤を若不得篤の輩は竹花器の規
矩する事なかれ自然に不叶器物出來ては本意を失ひ流名
の穢にもなるなり而して規矩の仕様は竹の廻りを元結に

まわし寸を取る 尤其器の中央にて取るを定法なれども少し上下は不苦其丈を二つに折り亦半分を四つに折ば左の圖の如く形五つになる是に五行の位を備へ以て規矩定の體さす又竹中に月日の肉あり併し此肉は節毎にて前後變る也陽の肉は背陰の肉は腹なり腹を正面さ定むべし且又踏出しのある處を前にす先正面に豎墨を打夫より三方の豎墨を打つ東西南北の方位を備へそれより外の墨を致也



右五行の員を以て四つの規矩四つ半、五つ、五つ半、六つ、六つ半、七つ、七つ半、八つ、八つ半、九つの規矩又四つ半のかね二丈等と惣丈を定むる處是れ自然の活器なり尊むべし 又上下の筒杯には三つ三つ半の規矩或は空風二步三步加る等と有は右折方の用ひ様なり 尙九寸廻りより尺二寸迄の竹は此五行を備ふ規矩を以てす 左の七種は九寸の竹を以て初めて作りたるものなればなり 此上尺二寸迄の竹は此割合を以て都ての寸を定む尺二寸より太き竹に至りては此規則を離し活の員に當て規矩致すさいへども活

員則五行より出たれば同意と心得べし活員の傳奥に記す
尤太竹にても五行の法を用て規矩致事また有之なり細密
なる事師に就て知るべし

竹器根元七種之作法心得

獅子口

竹廻り八寸より一尺二寸迄總丈四つの規矩月輪
の厚さ九分節中央正面竹廻り三つ割の一残す面

の取方七分三分曲尺の手也掛穴上切口より七分
下り六分に三分の蓮肉の形を取る口開二寸四分

寸渡

竹廻り同寸 總丈四つ半の規矩節中央より半曲
尺下る尤根竹にて作る時は節二つ三つ有もよし

二柱

竹廻り同寸 總丈四つの曲尺二丈下の寸度は三
つ半の曲尺月輪九分節中央に置く柱八つ割一残
す

手杵

竹廻り同寸 惣丈五つ半の曲尺筒は上下共同寸
口長さ一寸八分正面獅子口同様

鯨

鯨

竹廻り同寸 總丈四つの規矩二丈下筒三つ半の
規矩節は中央に置く首上九分節中央に置く正面
七つ割一残す 首穴割方鰐口と同じ

橋

杭

竹廻り同寸 總丈四つ半規矩節中央より半曲尺
上に置く穴幅九つ割一とす

二重獅子口

竹廻り同寸 總丈六つの規矩上口陽の一寸六分
下口陰の一寸六分餘は獅子口同様



常舟湖舟

両方共竹廻八寸より一尺迄總丈九つの規矩にして口の開方竹廻り三つ割一残す

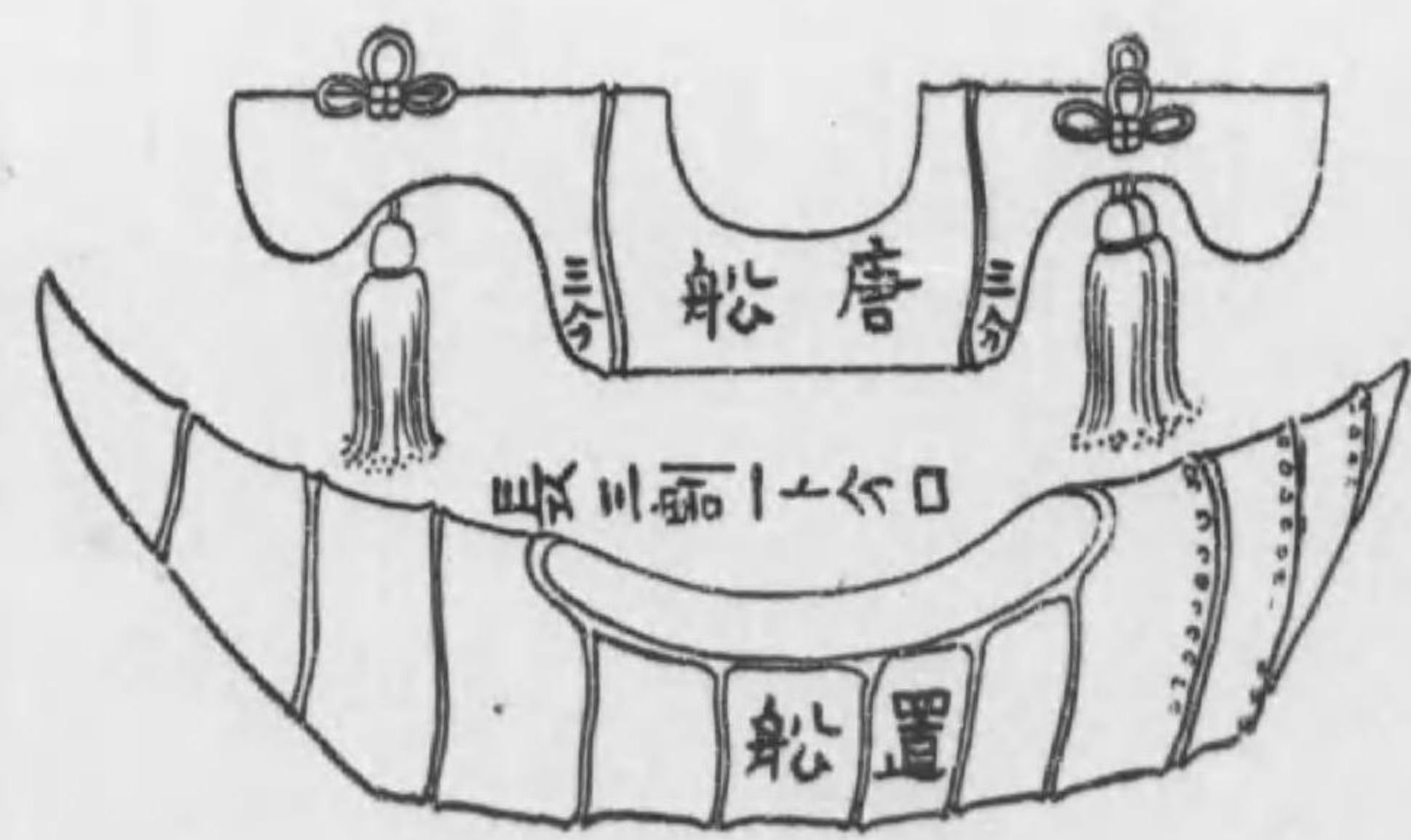
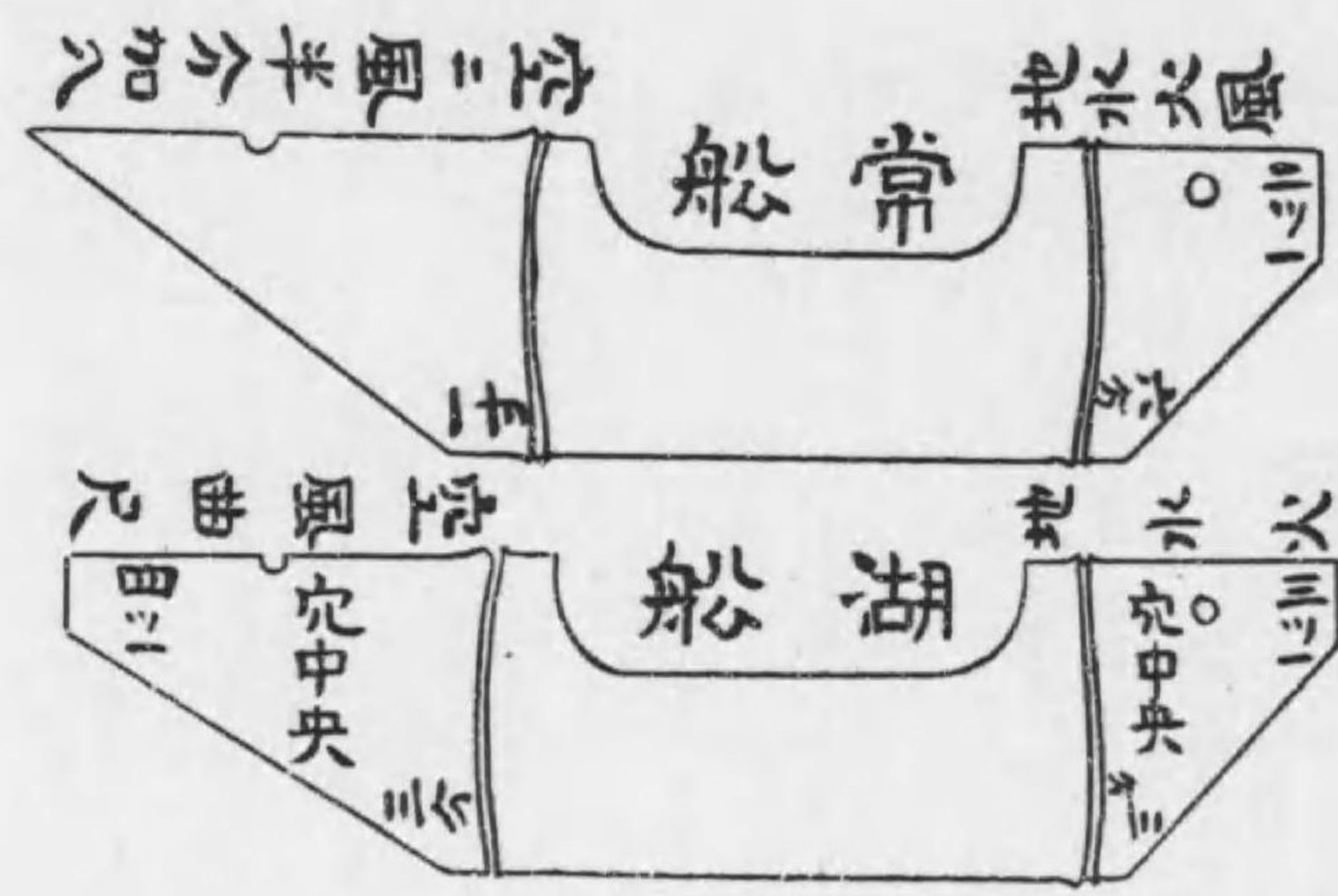
唐舟

竹廻り同寸 總丈九つの規矩を三つ割一として筒右左へ耳の削方唐獅子の耳の如し 口開常舟同様細密なる事は圖にて知るべし

置舟

竹廻り一尺五寸以上根竹にて切る惣丈二尺四寸より二尺八寸まで削方等常舟と同様





二重玉垣

竹廻り尺三寸以上の根竹にて拵る 總丈四つか
 五つ曲尺にて切る丸刳方玉垣と同様

變化鱈口

竹廻り八寸より尺一寸迄 總丈四つの規矩刳方
 細所にて竹の廻り四つ割一殘す月輪厚さ七分

二重橋杭

竹廻り尺三寸以上の根竹にて拵る 惣丈四つか
 五つ曲尺にて切る刳方橋杭と同様

二重櫓

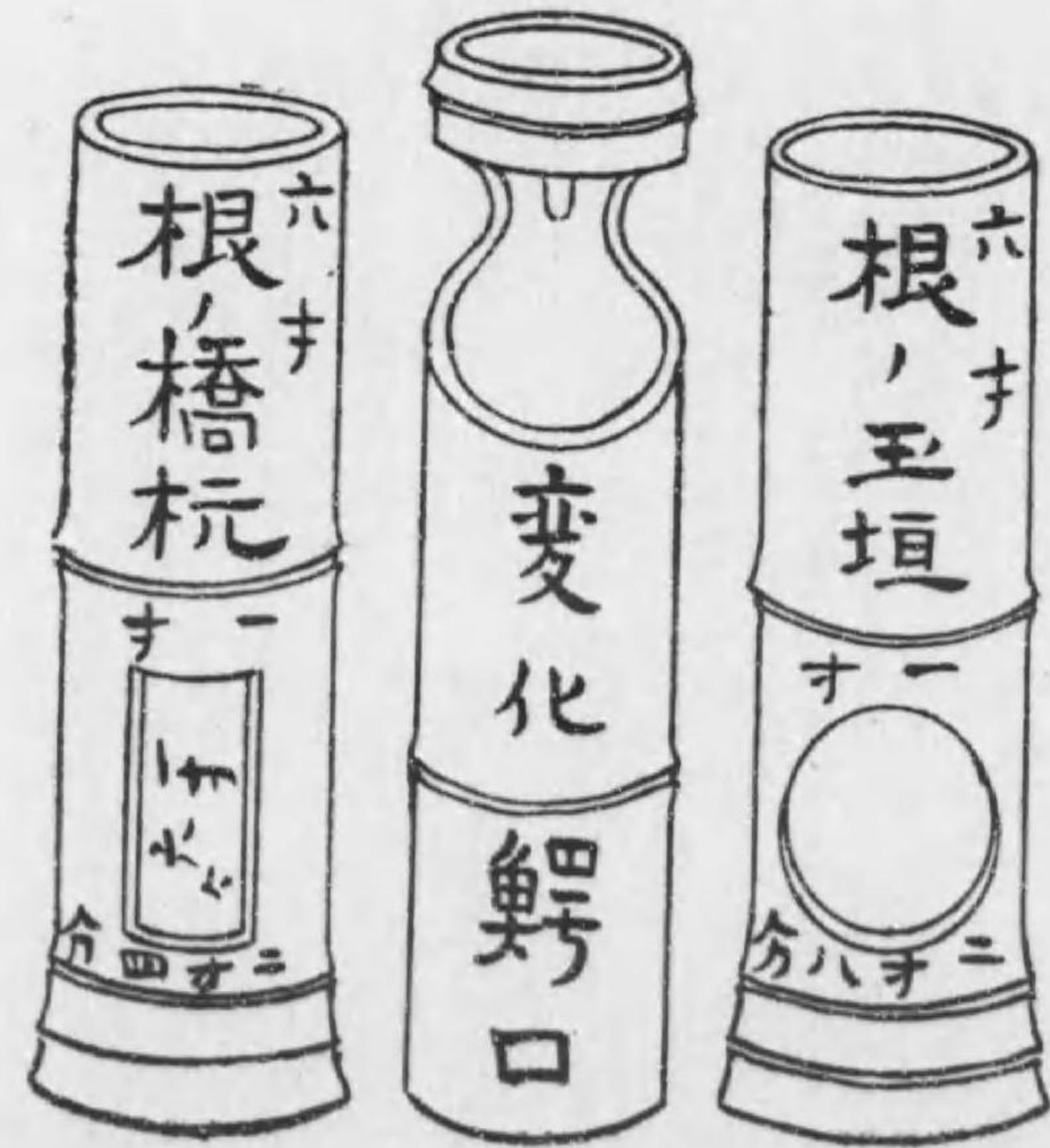
竹廻り尺二寸以上 總丈四つの規矩二丈下の寸度三つ半曲尺節中央上筒四寸八分柱六つ割一残す

二重切

竹廻り同寸 總丈九つの規矩上筒三寸六分中下口とも二重切の通りの寸にてよしも下口は鰐口の割方

立鶴

竹廻り同寸 惣丈二尺四寸より三尺迄上月輪九分節中央背三寸六分上筒二寸四分下筒一寸六分割方圖に注意されたとし



瓢 二重

竹廻り一尺五寸以上根竹惣丈二尺四寸上筒六寸四分下筒九寸割方風流にすべし

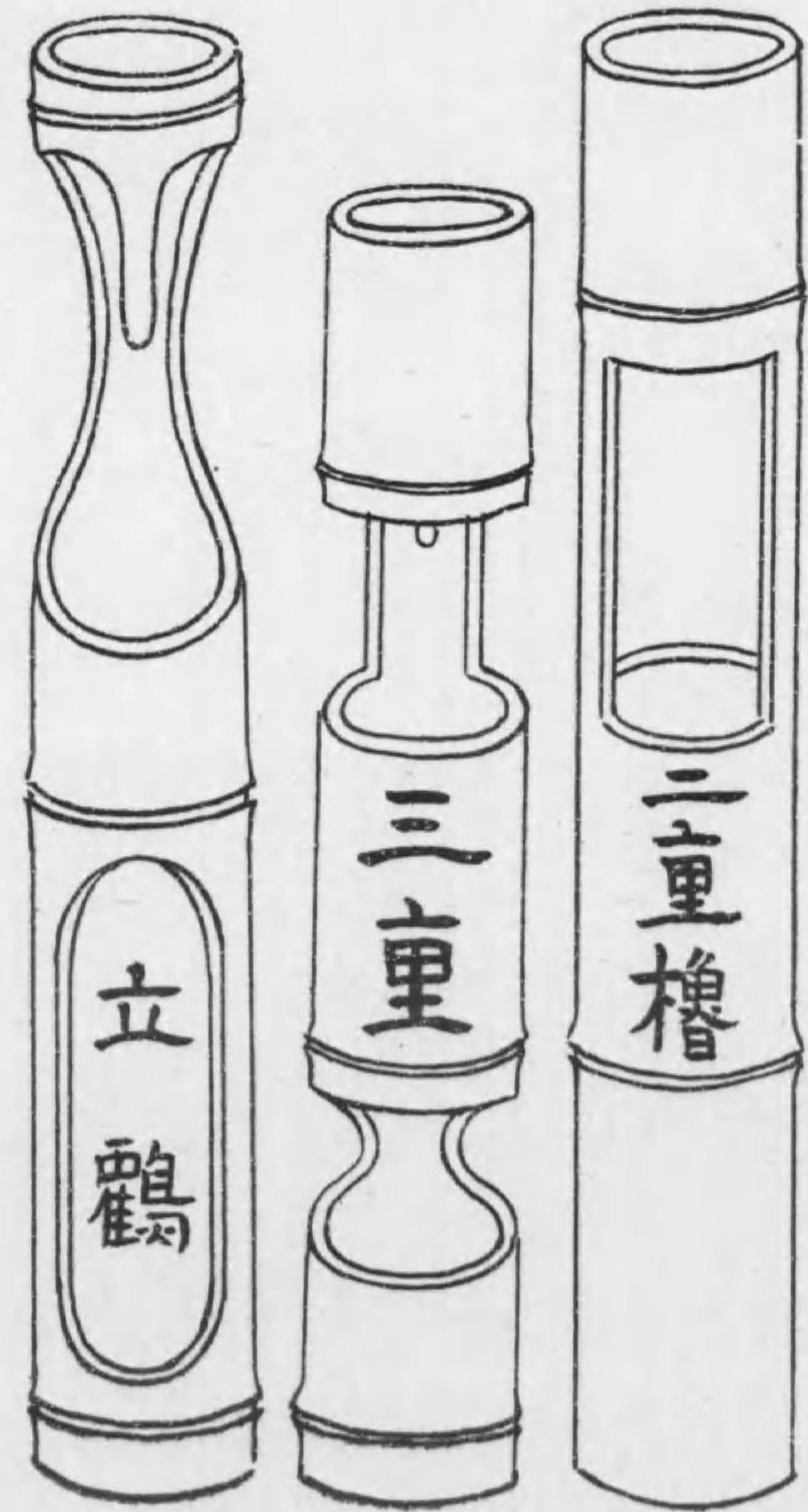
左 卷

竹廻り一尺二寸以上惣丈一尺六寸 上筒陽の二寸八分下筒陰の四寸八分割方圖に注意されたとし

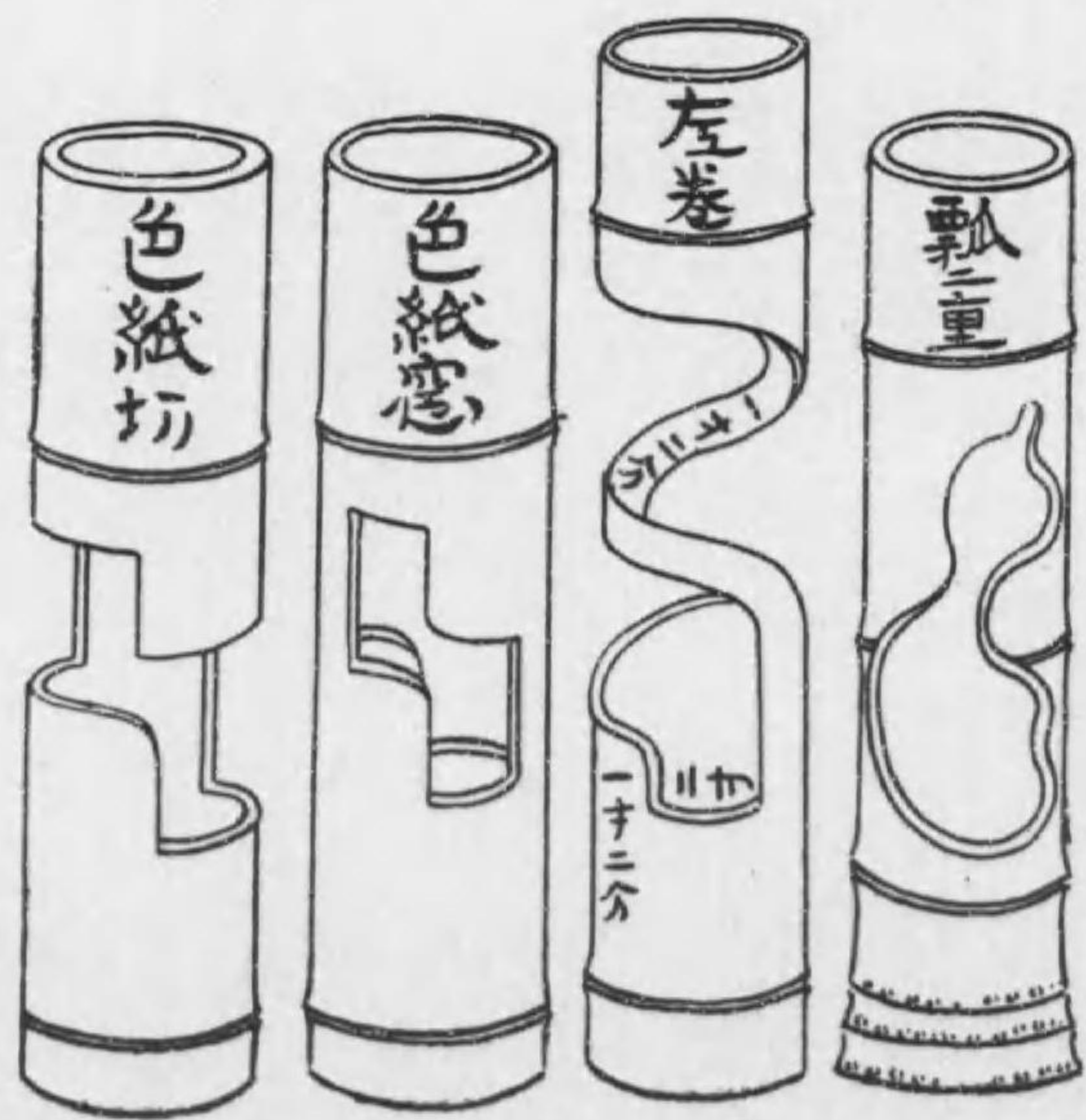
色 紙 窓

竹廻り九寸より尺三寸迄總丈五つ半規矩上筒四寸八分色紙切方二寸四分角打ぬきにすべし

色 紙 切



竹廻り同寸 總丈五つ半規矩色紙切方色紙窓に
 隨ふべし 向正面四つ割一殘す



三卷筒

竹廻り八寸より一尺迄 一〇二尺四寸 二〇尺六寸 三〇一尺 節の取り方圖の如し

尺八

竹廻り六七寸の根竹にて作る總丈尺八寸 此花器は三口挿なれ共二口挿してもよし

五卷筒

竹廻り八寸より尺二寸迄 一〇三尺六寸 二〇尺八寸 三〇陽の尺六寸 四〇陽の一尺五〇陰の九寸六分以上高きは悪し

新大佛柱

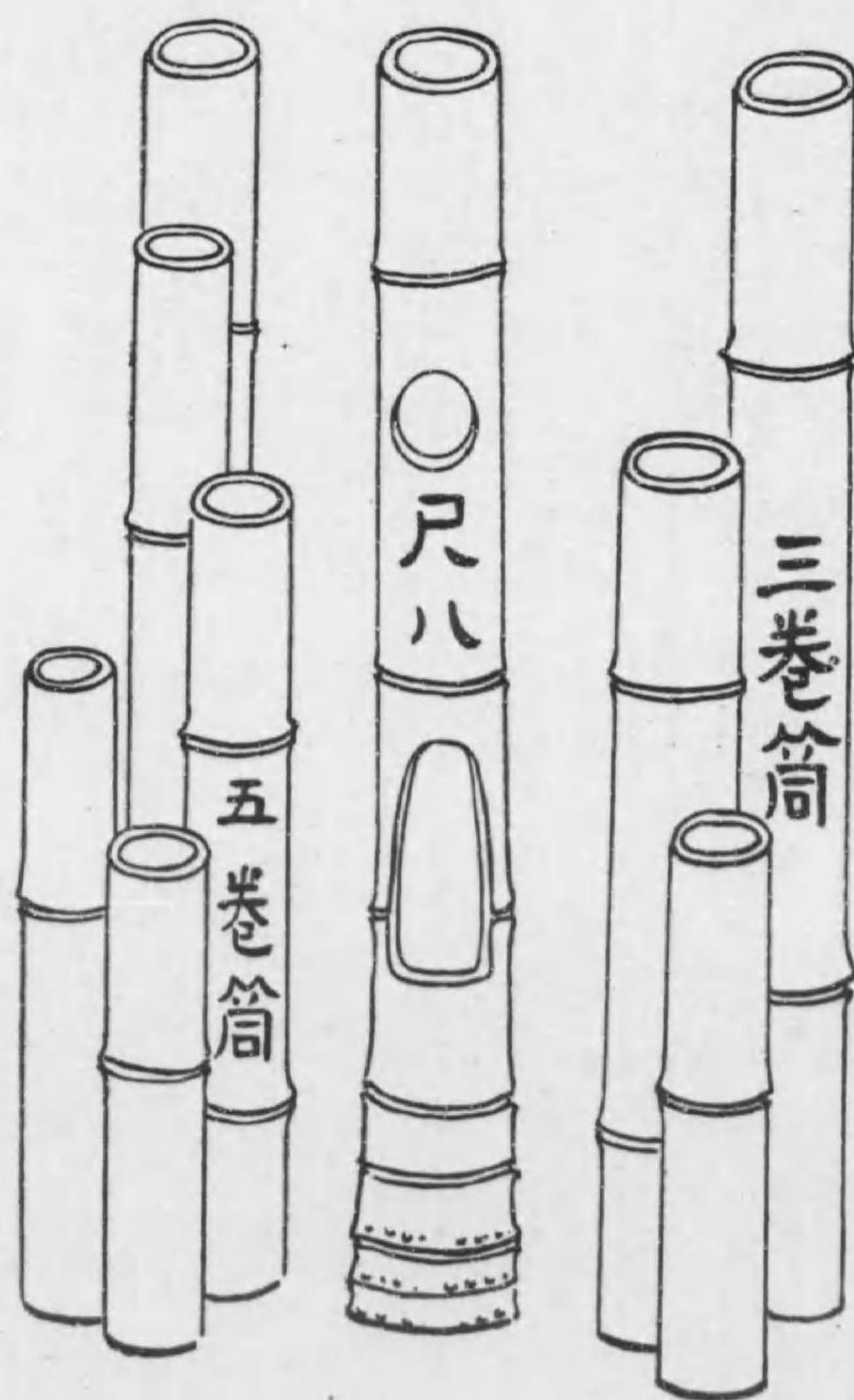
竹の廻り九寸より尺三寸迄總丈五つ曲尺割方柱
二寸上り節より一寸下りて切る

鴈門櫓

竹の廻り同寸 惣丈五つの曲尺 外は同寸

鴈門二重

竹の廻り同寸 惣丈五つの曲尺 外は同寸



中瓢三重

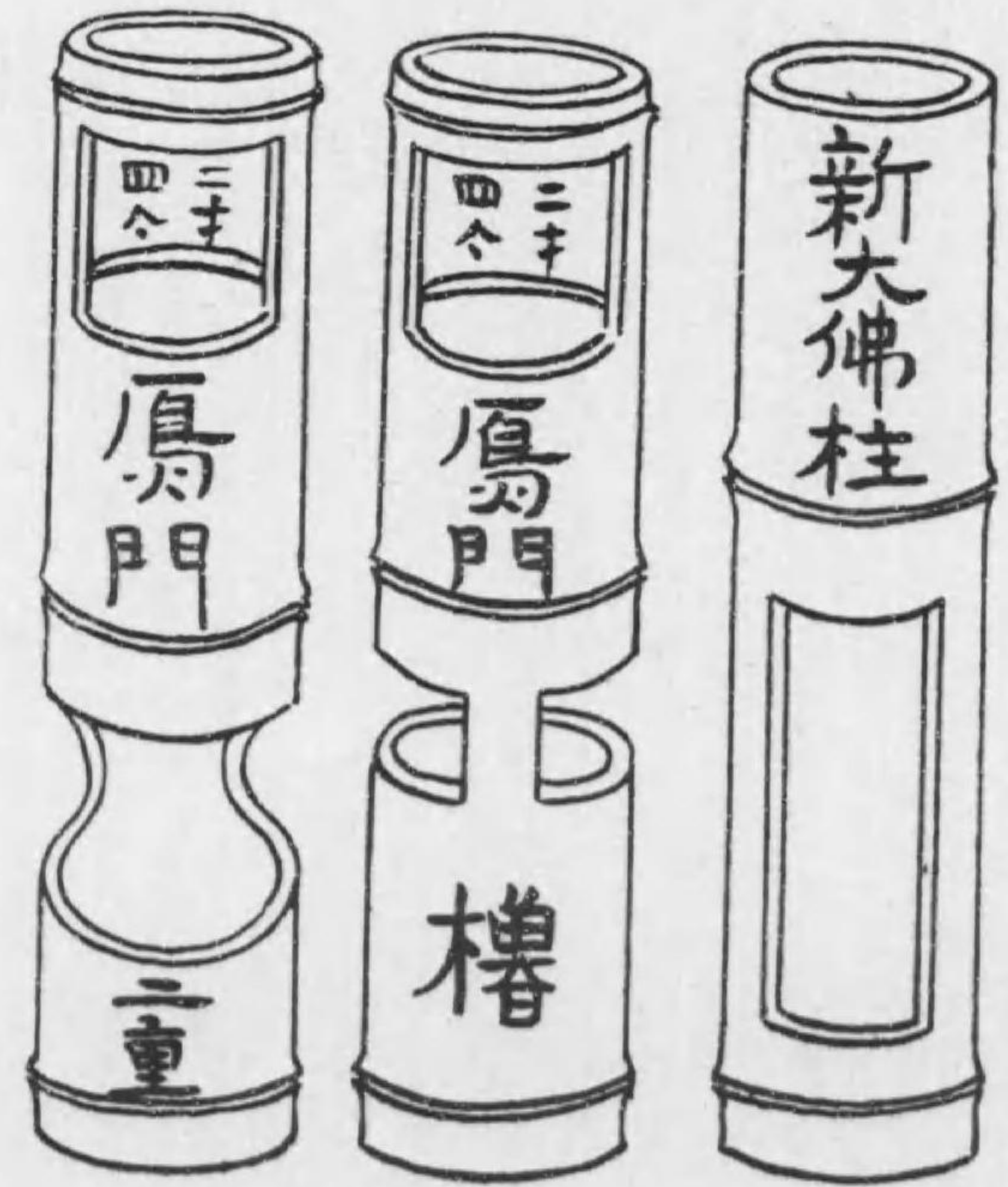
竹廻り九寸より尺三寸迄惣丈二尺八寸上筒四寸
八分瓢下筒二寸四分洞下三寸八分外風流に刳る
べし

中捻三重

竹廻り同寸 總丈陽一尺六寸上中下筒刳方前と
同じ

洞重三重

竹廻り同寸 總丈陽一尺六寸上筒四寸八分中下
共陽二寸八分洞開方眞墨より後に竹廻六分残す



鑷

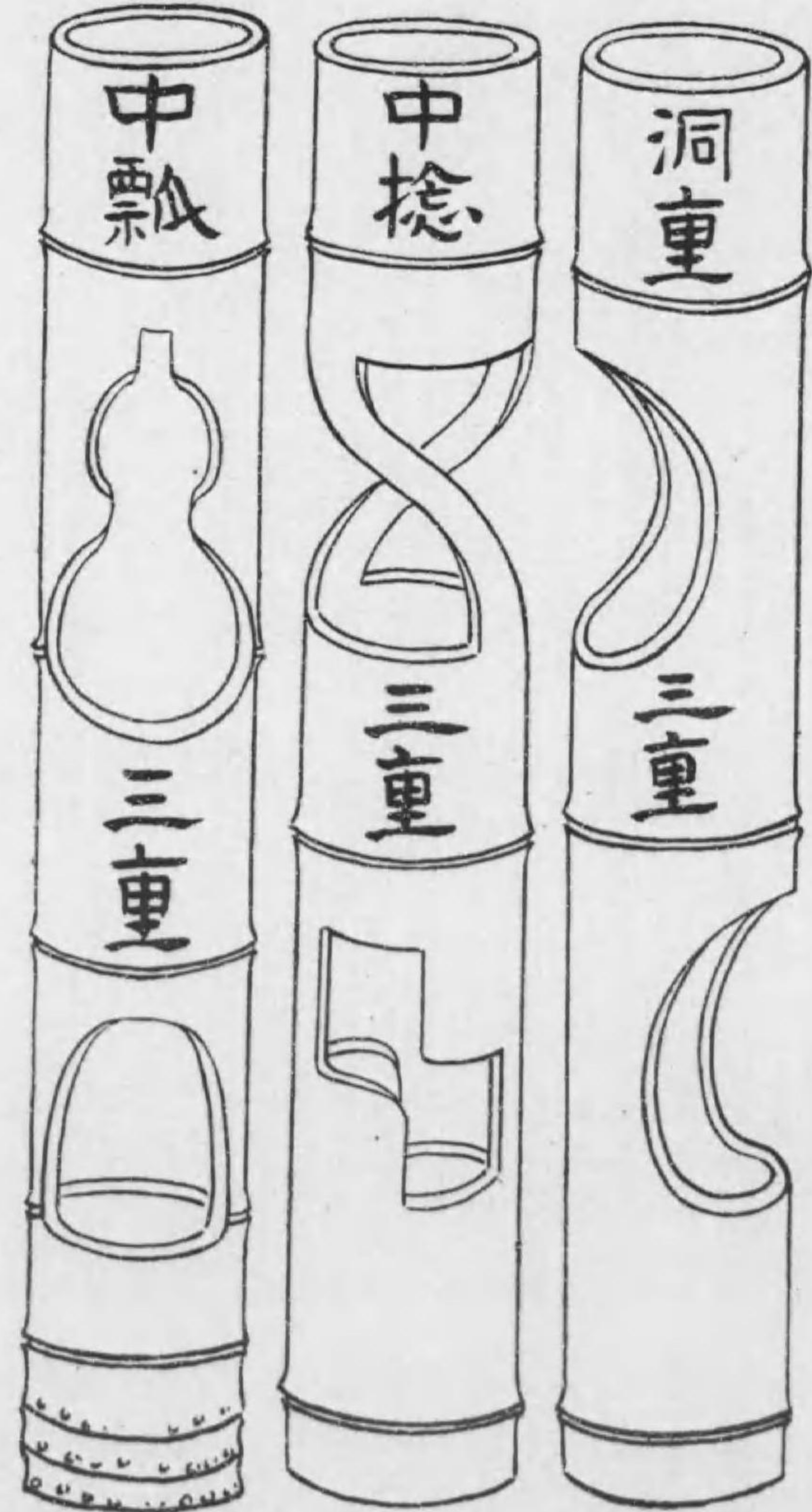
竹廻り一尺二寸以上惣丈四つ半節中央穴開廣き
所にて竹廻り四つ割一とす 割方節より一寸下
とす

瓢 寸 渡

竹廻り同寸 總丈四つ半規矩節中央より半曲尺
上る 割方風流にすべし

丸 玉 垣

竹廻り同寸 總丈四つ半曲尺節中央割方節一寸
下より 竹廻り四割一の丸穴



壽

老

竹廻り一尺二寸以上總丈五つ半の曲尺上筒は下筒より地曲尺一丈長く下口節より九分下り二寸四分開く外鰐口同様

雁

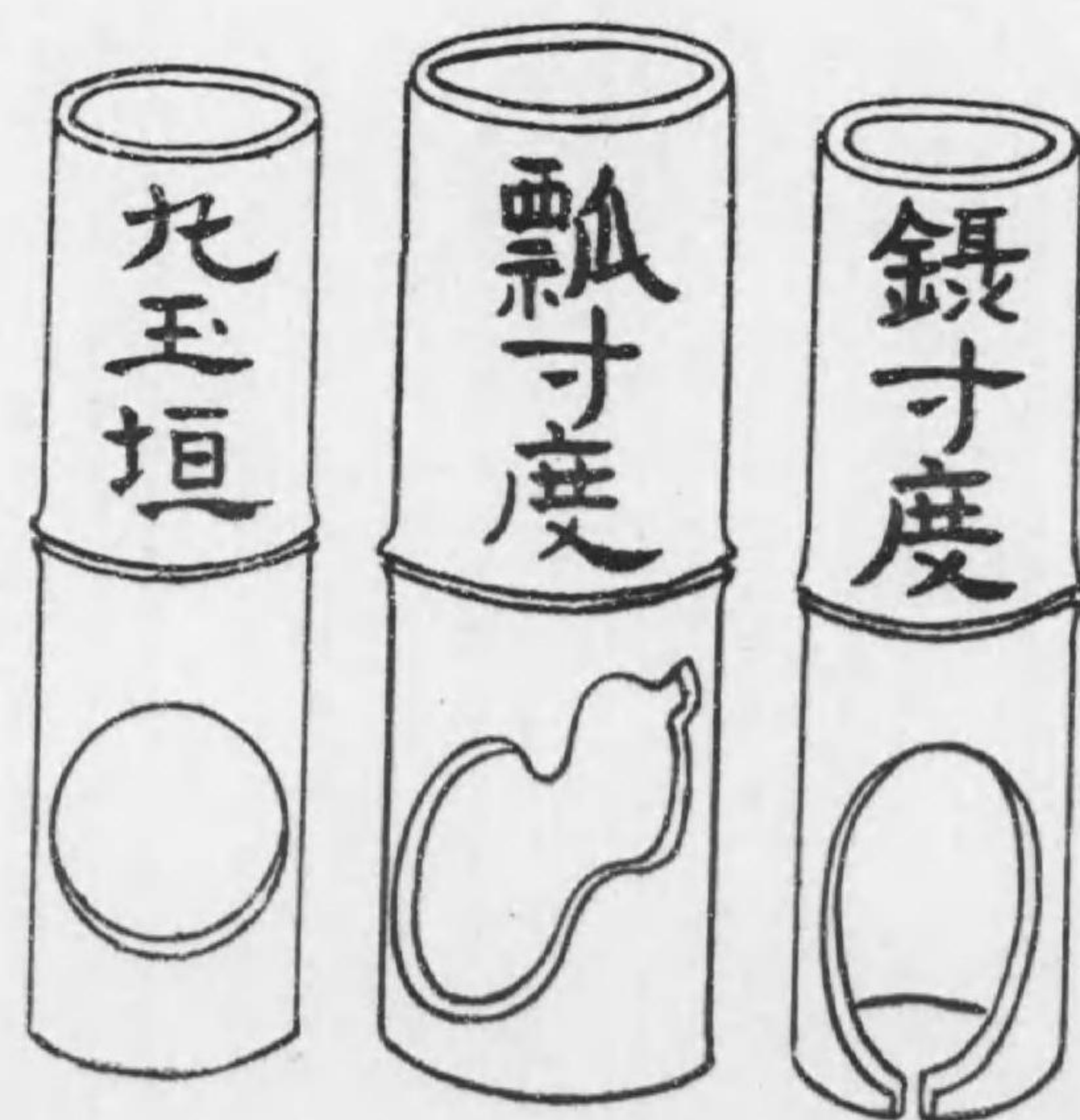
門

竹廻り同寸 惣丈五つ半規矩口開三寸六分月輪九分柱八つ割一残す

天

蓋

竹廻り同寸 惣丈五つ半の曲尺上筒より下筒を地の曲尺一丈長く作る外壽老同様



登

猿

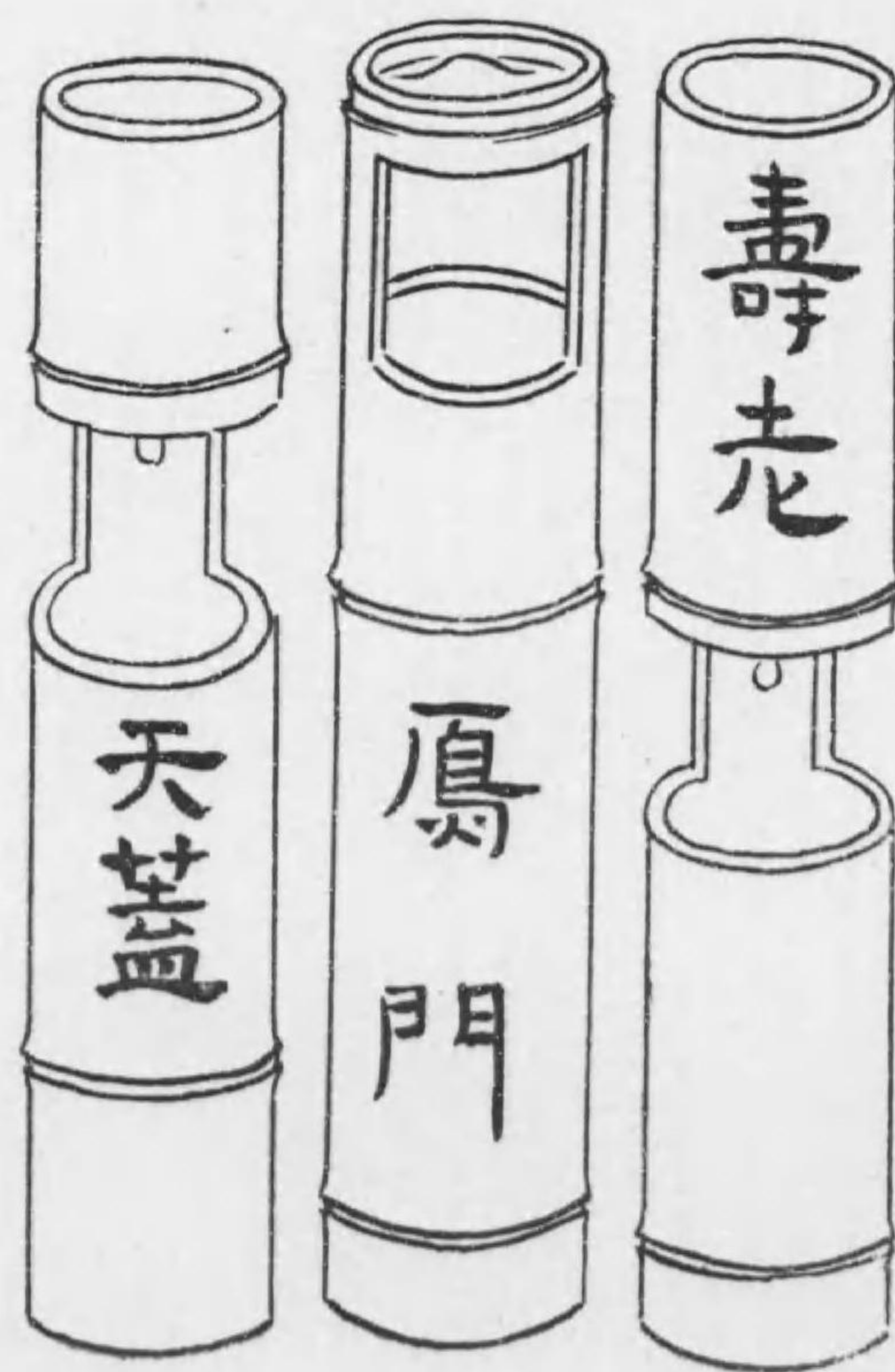
竹廻り八寸より一尺二寸迄總丈四つ半の規矩二丈餘に四寸八分加る下筒三つ半の規矩節中央に置く上は獅子口と同じ下の正面七つ割一分残す

五重尺八

竹廻り七八寸の根竹にて尺八形に割り 總丈三尺六寸尤も置花器とす

三重登猿

竹廻り八寸より一尺迄 總丈二尺八寸上の獅子口四寸八分中鱈口陽の二寸八分下の寸度七寸二分向正面七つ割一分残す



眞 鶴

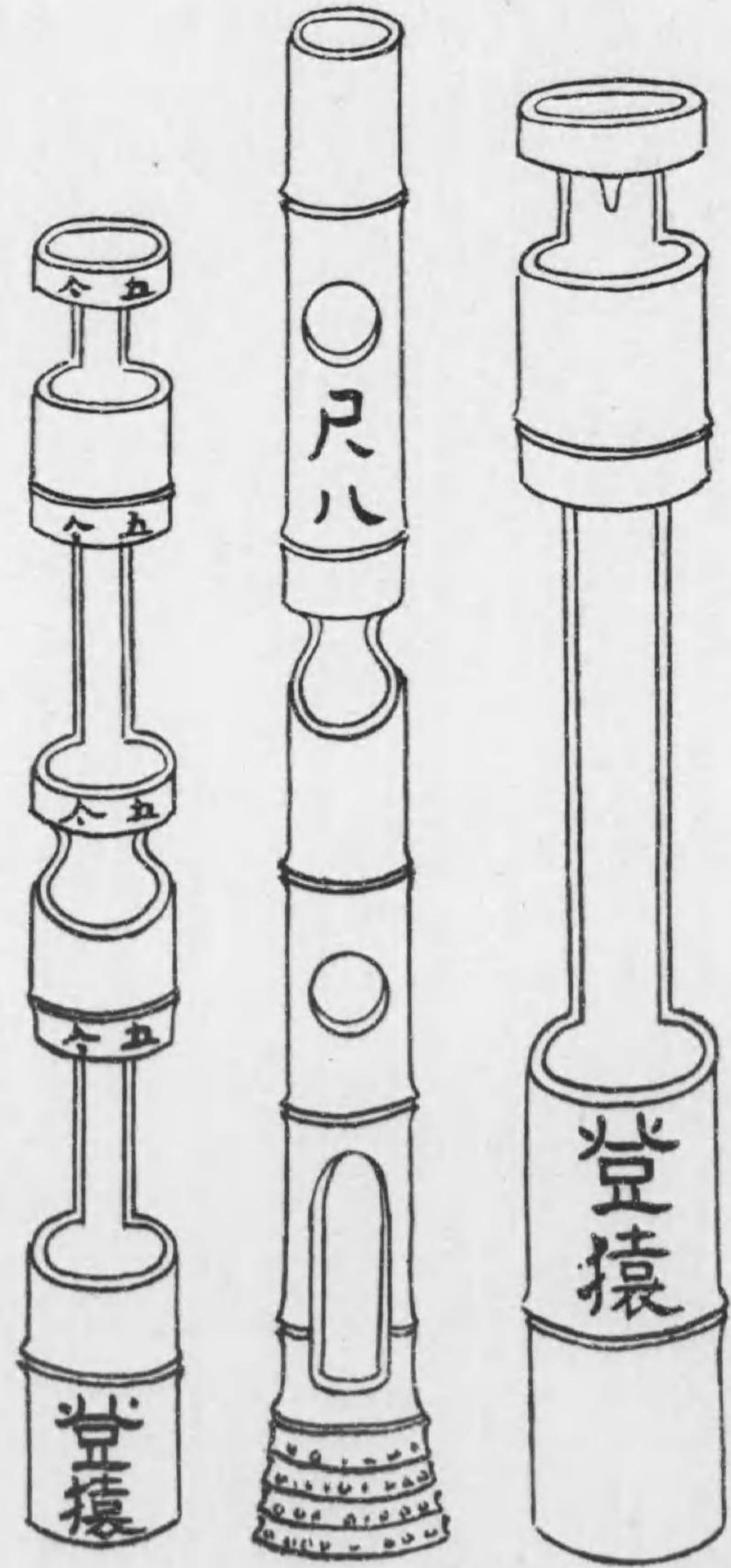
竹廻り八寸より一尺二寸迄背四寸八分 此外鯨
鱧と同寸

曲 水 虎

竹廻り一尺三寸以上惣丈一尺八寸下筒八寸節中
央上筒四寸八分刳方圖にて知るべし

水 虎

竹廻り八寸より一尺二寸迄上筒三寸六分下の向
正面六つ割一残す刳方圖に注意されたとし



洞 二重

竹廻り九寸より一尺三寸迄總丈五つ規矩洞は竹廻り四分開き後六分残す

曲 鶴

竹廻り一尺三寸以上の根竹にて總丈眞鶴と同じ下筒九寸刳方圖に就て知るべし

相 生

竹廻り九寸より尺三寸迄總丈六つの規矩四寸八分下筒二寸八分後四つ割一残す 前細き所一分



五重切

竹廻り一尺五寸以上總丈三尺六寸より四尺八寸迄の根竹節多くは不苦尤も半員吉口の剝方等圖に付又は師に就て知るべし

尺八

竹廻り六七寸根竹總丈陽の一尺八寸 此花器は上に垂物挿し丸穴休ませ下口に挿す垂物なき時は丸口挿し三重挿にしてもよし

天ノ原

竹廻り九寸より一尺三寸迄竹總丈二尺八寸上筒四寸八分中筒陽二寸八分下筒二寸八分剝方圖に注意されたと日月共一寸二分丸



310
214

發行所

華道講習會本部

振替 大阪 四七三九七番

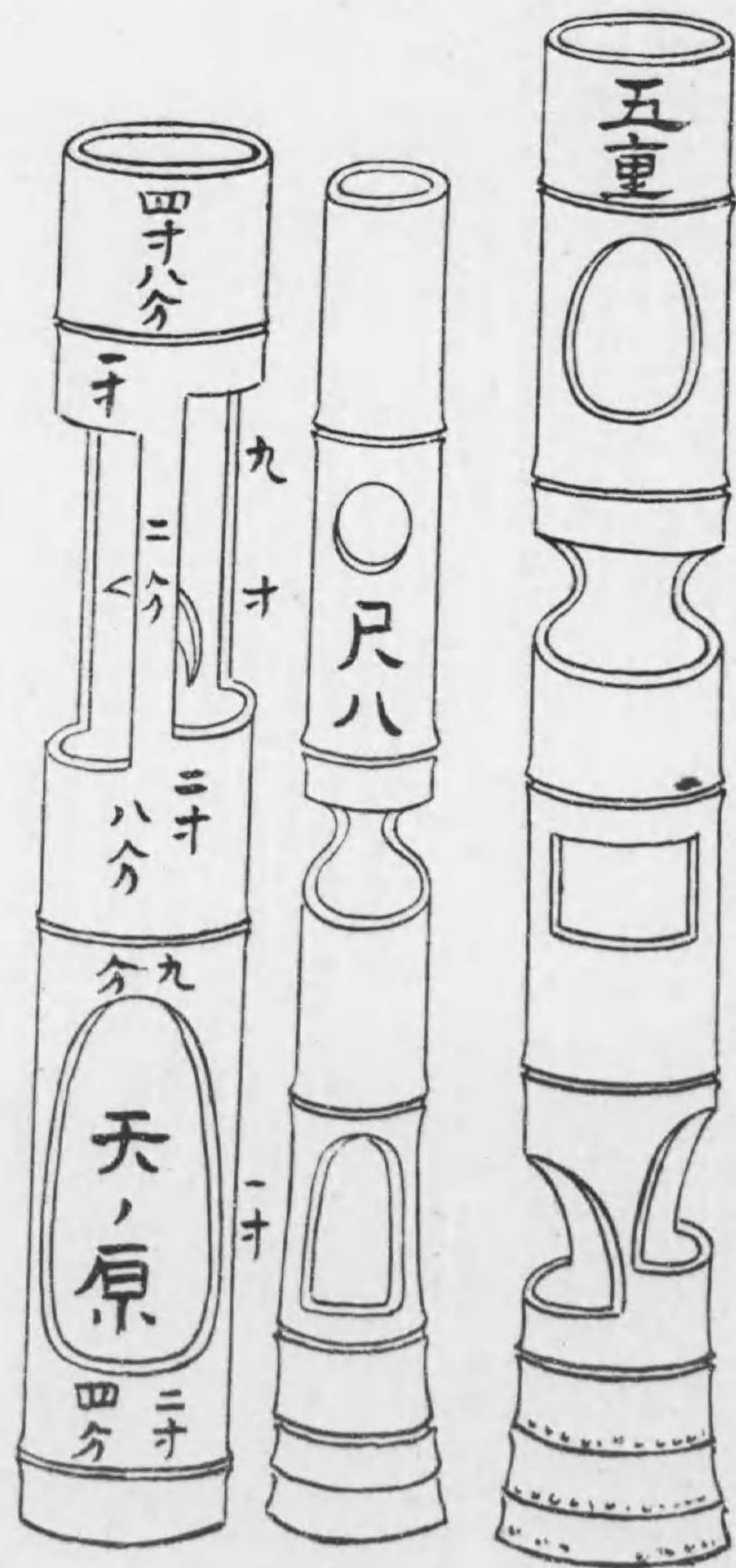
京都市佛具屋町五條南入

嚴禁
複製及複寫

大正十五年十一月十日印刷
大正十五年十一月十五日發行

著作兼發行者 笹岡桃流齋
京都市佛具屋町魚棚上ル

印刷所 森大進堂
京都市新町通楊梅下ル



終